

九曜会創立70周年記念式典 盛大に開催

－記念講演・薄茶席・記念誌発行－

期 日 令和7年3月16日

会 場 ホテル武志山荘



九曜会会長 挨拶



薄茶席
武志山荘 山茶花の間



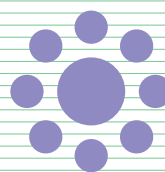
建長寺 三門
(国重要文化財)



家元 献茶



法堂にて 法要・献茶式



三斎流

九曜会だより

特集号

発行

三斎流九曜会

会長 小林 祥泰

事務局 出雲市今市町53

三斎公三百八十年遠忌記念茶会

— 細川護光様・三井智子様を

お迎えして —

期 日

令和六年十一月十七日

会 場

鎌倉 建長寺

三齋公三百八十年遠忌
記念茶会

法要・献茶式

三齋公三百八十年遠忌記念茶会
が、日本で最初に「禅寺」と称し
た鎌倉五山第一位の建長寺にて催
されました。

法堂では、細川護光様をはじめ
来賓の方々のご臨席を賜り、建長
寺管長 吉田正道老大師の御導師
のもと、多くの参列者が見守る中、
森山宗浦家元による献茶式が厳か
に執り行われました。続いて法要
が営まれ、読経に続き、来賓の焼
香が行われました。

最後に、九曜会小林祥泰会長が
感謝の辞を述べ、澄みきった秋空
の下、無事に法要・献茶式を終え
ることができました。



御来賓（左より） 宗浦家元 献茶
細川護光様・三井高輝様・智子様・御子息様



え こうもん
回 向 文

細川様 御焼香



建長寺管長 吉田正道老大師

記念茶会

境内（国史跡）各所に濃茶席、
薄茶席、立礼席、点心席を設え、
お客様をお迎えしました。

濃茶席は宗浦家元が席主を務め
られ、普段立ち入ることのできな
い僧堂 少林窟に釜が掛けられま
した。床には、建長寺蔵の一休宗
純禅師筆「諸悪莫作衆善奉行」を
掛け、勅銘香「白菊」も飾られま
した。その場で作った御菓子をお
出ししたことも、お客様に喜んで
いただきました。



一休宗純禅師筆
「諸悪莫作衆善奉行」



濃茶席（僧堂 少林窟）

薄茶席は応真閣において、表千
家の正井風玄氏に添え釜いただき
ました。

また、正面に唐門（国重要文化
財）、裏手に庭園（国名勝史跡）
が広がる龍王殿では、翠尚会の梅
村尚子先生による立礼席が設けら
れ、熊本銘菓「加勢以多」ととも
に薄茶が振る舞われました。



薄茶席（応真閣）

濃茶席

席主 観翠庵

掛物 一休宗純禅師筆 諸悪莫作衆善奉行 建長寺蔵

花 季のもの

花入 三齋公一重切 観月庵伝来

香 初銘 白菊

香合 三齋公御手造 宝珠

釜 三齋好 三標釜

水指 細川家旧門古材

茶入 真塗手桶

仕覆 利休瀬戸 銘玉虎

茶碗 金海 藤村庸軒箱 朗庵宗世外箱

替 古萩 銘穂 岡田雪台公箱

茶杓 黒 近衛文麿公直書 玄孫焼

建水 三齋公共筒 三齋公公共筒 淨益作

蓋置 櫻路紋 宗瑞在判

御茶 松向の昔 出雲 微笑庵詰

御菓子 白菊 出雲 坂根屋製

菓子器 九曜紋高坏

遠忌記念茶会・鎌倉への旅

下垣社中 児玉宏子

下垣社中五人の旅は、出雲空港から始まりました。十一月十六日にバスで湯河原に到着された先発隊の皆さんと合流し、不東庵を見学。こんな機会がなければ拝見できない細川護熙氏のお住まいです。作陶がなされてきた工房には、多くの作品が鉄のカーテン（地震対策）の引かれた棚に並べられ、シラク大統領をお迎えするため作られたという茶室「一夜亭」は、明るい外光の差し込む心地よい空間でした。

その日の夜行われた夕食会では、建長寺の管長様から記念茶会歓迎



立礼席（龍王殿）

のご挨拶があり、宗浦家元が三味線を披露されるなど和やかなひとときを楽しみました。

そしてお茶会当日、建長寺の広い敷地内を、歴史を感じつつ歩く時間は本当に有難いものでした。宗浦家元がご亭主の濃茶席では、思いがけず細川護熙氏のご子息とご息女、そして宗育宗匠と同席させていただくことができ、交わされる会話の中で頂くお茶の味は格別でした。

全てが「一期一会」の貴重な体験で、満足感に満ちた鎌倉の旅。感謝でいっぱいです。



湯河原 不東庵にて

三斎流九曜会
七十周年記念事業

記念式典

前日から降り続く冷たい雨で全ての木々がしっとりと潤う中、約百名の会員が参会し、記念式典が盛大に開催されました。

初めに、小林祥泰会長が九曜会のこれまでの歩みに触れ、祥山宗匠の並々ならぬ苦労と、田部長右衛門様、遠藤嘉右衛門様のお支えがあったから今日があると、感謝の言葉を述べられました。併せて、九曜会の益々の発展を祈念する挨拶がありました。



出雲市長 飯塚俊之様 御祝辞

次に、森山宗浦家元様より御祝辞を賜り、その中で「稽古照今」についてお話をいただきました。

また、出雲市長飯塚俊之様より、出雲に根付いた武家茶道の道のりに敬意を表すとともに、出雲市の文化発展を願うお言葉をいただきました。

【御来賓の皆様】

三斎流家元観翠庵

森山宗浦 家元

同 森山宗育 宗匠

同 森山典子 先生

出雲市長 飯塚俊之様

表千家島根支部長

遠藤嘉右衛門様

裏千家島根支部副支部長

長岡秀治様

武者小路千家出雲松和会

副会長 小守守春様

不昧流不昧会 手銭裕子様

同 高橋照子様

続いて、小林祥泰会長より「九曜会の歴史」と題しスライドが上映され、歴代会長の紹介等、これまでの九曜会の歩みについてお話がありました。

最後に、これまで九曜会にご尽力いただいた方々に、会より感謝状と宗浦家元の色紙が贈呈され、

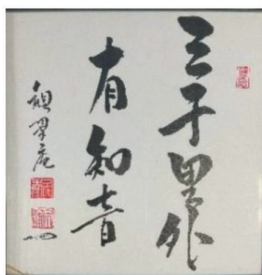
受賞者を代表して山崎智恵子先生が、お札の言葉を述べられました。

【功労者表彰】

山崎智恵子先生 伊藤末子 先生
杉山郁子 先生 岡田喜世子先生
三代和鑑 先生 大平晴之 先生
今岡祥子 先生 渡部文子 先生
山田晶子 先生 下垣孝子 先生
野々村和子先生 杉原昭子 先生
佐藤忠正 先生



山崎智恵子先生

宗浦家元筆
「三千里外有知音」

記念講演

演題「笏を執りて」

出雲國造家・神社神道のこと等

講師 出雲國造

北島建孝様



北島建孝 國造様

和やかな昼食会の後、出雲國造北島建孝様に「笏を執りて」と題し、ご講演いただきました。

笏とは、神様との結界の役割をしており、「居を正す」という意味があるそうです。実物を持って来てくださり、皆が手に取り見せていただきました。材質は、イチイの木が最上で、塗った物もあると説明されました。

また、神社は暮らしと密接しているというお話がありました。縁結びをお願いする時は、出雲大社よりも先に、氏神様にお参りしてお願いすると、出雲大社に集ま

られた神様が相談され、良縁に恵まれるそうです。國造家や神道の成り立ちについても解りやすくお話しくださいました。
國造様のお人柄に触れながら楽しく拝聴し、七十周年の節目に一同、気持ちを新たにして記念式典を終えました。



昼食会 会話も弾んで



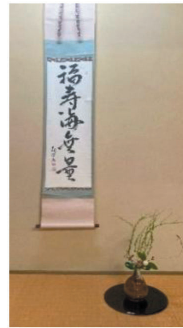
貴重な笏を手に…



記念茶会



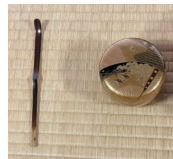
田部長右衛門様より



宗浦家元筆「福寿海無量」



銘「従心」



お茶席を担当して

野々村社中 松浦秋湖

この度、九曜会七十周年記念の茶会を杉山社中、山本社中、野々村社中で担当させていただきました。

雨が降って足元の悪い中でしたが、宗浦家元、宗育宗匠、典子先生をはじめ、他流派のお客様、賛助会員、会員合わせて八十六名の方にお入りいただきました。

お道具は、観翠庵四代にわたるお家元にまつわる思い出深いお品を使わせていただきました。

この記念の日にお席を担当できましたことを、感謝申し上げます。

九曜会七十周年記念茶会

會 記

床 宗浦家元筆 一行 福寿海無量

花入 唐津 徳利

花 季のもの

釜 切合

風炉 唐銅象耳九曜紋透

風炉先 梅結界 渡部良和作

棚 長板真塗

皆具 黄文趾

茶器 朱金 扇面蒔絵

茶杓 宗浦家元共筒 銘暖風

茶盤 祥山宗匠蘭絵

替 宗瑞宗匠華甲記念

替 銘華

替 宗育宗匠古希記念

銘布志ノ山

御茶 宗浦家元好 天香ノ白

御菓子 銘従心

菓子器 古赤絵

蓆盆 宗育宗匠好 九曜紋透

火入 古染付松竹梅紋

*会場の照明により、写真が一部実際の色と異なる場合があります。

九曜会事業報告

令和六年七月～令和七年六月

○総会

令和六年七月十五日(日)

ホテル武志山荘

会員約七十名が参集して開催。

小林会長と宗浦家元の挨拶の後、令和五年度会計決算報告、並びに令和六年度事業計画・予算案が承認されました。

午後の記念講演では、須佐神社宮司 須佐建央様により「須佐神社と須佐之男命」と題して、出雲神話と令和七年に遷宮を迎える須佐神社、須佐家の系譜等について解りやすくご説明いただきました。

改めて、出雲の発祥と悠久の歴史、出雲神話を身近に感じる貴重なひとときとなりました。



須佐建央 宮司様

○亀山茶会

令和六年九月二十九日(日)

出雲大社北島國造館

【献茶式】

未だ暑さの残る中、御神殿にて献茶式が肅々と斎行されました。

北島建孝國造様の祝詞奏上に続き、宗浦家元により天穂日命に薄茶が献じられ、参列者は安寧と無病息災、五穀豊穡と当流の隆昌を祈念しました。



名古屋からの来客や一般客も見られ、清秋の神域は一日賑わいました。

【拝服席】

八雲会館

担当 野々村社中

来客数 一二一名

日中は三十度を超す暑さの中、冷房の効く室内で、拝服席を担当させて頂きました。

野点傘に畳一枚で、松陰籠点前の設えでおもてなしを致しました。目新しい道具はありませんが、雲南らしい山野草を数多く野点傘に活かすことができ、花の名前に興味を持ってくださる方が多く、嬉しく思いました。

不束な席でしたが、無事に終えることができ、感謝いたします。

(野々村社中 野々村和子)



【薄茶席】

亀山会館 亀游の間

担当 山崎社中

来客数 一二二名

澄み渡った秋晴れの日に、薄茶席を担当させて頂きました。

お客様をお迎えする前、亀の尾の瀧に木漏れ日が差ししており、清々しい想いでお迎えすることができました。

御家元直筆の軸「喫茶去」を掛け、一服に心を通わせられるひと時となることを願い、立礼席にておもてなしました。



不慣れな点多々ありましたが、素晴らしい景色を前におもてなしできたことに感謝いたします。

(山崎社中 角 恵子)

○松江城大茶会

令和六年十月二十六日(土)

二十七日(日)

赤山茶道会館

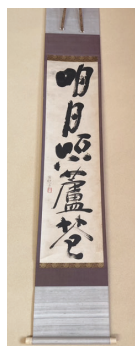
担当 杉山・岡田・伊藤

来客数 二二三名

準備を含め三日間良い天気恵まれ、四社中混成担当でなかなか全員が集まって打ち合わせできずでしたが、当日は、全員が連携してスムーズにお茶席ができ、感謝しています。

今回のテーマは、十月の終わりということで、名残、晩秋、わびさびの風情を感じてもらえるように、取り合わせや点前座、花等を考えました。二日間、受付をしていただきました事業部の方々にも、お礼申し上げます。

(福岡社中 福岡喜代美)

不味公筆
「明月照蘆花」

○早春の茶会

令和七年三月二十三日(日)

出雲文化伝承館 松籟亭

担当 山田・下垣・加儀社中

来客数 三四一名

当日は、春の陽気に吹く風が爽やかな好天気恵まれ、沢山のお客様にご来席いただきました。

お床には、無文老大師の「花開萬國春」。祥山宗匠の花入に小米桜と糊こぼしを入れ、春の訪れを趣とした設えで皆様をお迎えしました。

海外からのお客様にも楽しんでいただけたようです。終日、和やかな雰囲気の中、社中一同、心を込めてご奉仕させていただきましたこと、嬉しく思いました。

(山田社中 宮岡 泉)

山田無文老大師筆
「花開萬國春」

○新樹の茶会

令和七年四月二十九日(祝・火)

【薄茶席】

観翠庵道場 富士の間

担当 辰村社中

来客数 八四名

記念すべき昭和百年の節目の日
にふさわしく、晴天に恵まれ爽や
かな雰囲気の中、お茶席を担当さ
せていただきました。

各茶席の人数が分かっていたの
でスムーズにお茶をお出しするこ
とができ、時間のずれも昼休憩で
調整することができました。

道具や設え、山藤をイメージし
たお菓子など、お客様に楽しんで
いただけたと思います。

お掃除やお手伝いくださいまし
た皆様に感謝申し上げます。

(辰村社中 井谷安江)



【呈茶席】

観翠庵道場 松霞亭

担当 佐藤・大野社中

来客数 九〇名

爽やかな晴天の下、茶室の硝子
戸を開放し、入ってくるそよ風と
ともに一服のお茶を楽しんでいた
できました。

二月に急逝された佐藤先生が、
このお茶会のために準備されてい
た無文老大師の「夢」のお軸と、
大切にされていた花入を飾り、お
客様と一緒に先生を偲びました。



また、立夏
を前にし蝸
牛画賛や染
付等で清々
しさを感じ
ていただき
ました。

皆様のご協力に感謝いたします。
(佐藤社中 新田容子)

○出雲大社大茶会

令和七年五月十五日(木)

出雲大社 西神苑

担当 直門・山本社中

来客数 四〇二名

当日は天気も良く、床にお掛け
した御家元のお軸「宝船」に書か
れている「長閑に風は」の通り、
穏やかな気候で、午前中は一席に
五十人以上入られる程、多くのお
客様がありました。

三齋流のお点前を初めて見られ
る方も多かったようで、丸卓の上
に飾る帛紗の冠が珍しく、色々な
方に聞かれました。初めてお運び
をされる方もいましたが、最後の
方には手際よくできるようになっ
ていました。



(直門 那須裕史)

○講習会

令和七年六月一日(日)

今市コミュニティセンター

担当 研修部

参加者数 四六名

今年度は、大寄せ茶会を想定し、
「正客と亭主のやりとり」をテー
マに研修を致しました。

御家元には随時、ご説明をいた
だきました。静止した座を和やか
な雰囲気導く言葉掛け、話すタ
イミング、お点前に合わせた水屋
の動き等々、丁寧に教えていた
きました。



三齋流の良さを更に発信できる
ように、
今後もし
スタゲ
ラムを更
新してい
きたいと
思ってお
ります。

○青年部



(研修部 錦織君子)

大寄せの茶会では、お客様が楽
しく和やかな雰囲気の中で、一服
のお茶を美味しく召し上がること
が一番大事であると感じました。
学び多い会でした。

皆様のご協力をお願いいたしま
す。

(青年部 三島羊子)

祝・米寿(昭和十三年生まれ)
おめでと〜ございませう

大平晴之先生 大平社中

ご健康とご多幸を

お祈りいたします。

編集後記

暑中御見舞申し上げます。

今回は従来の連載を休載し、九
曜会二大事業を中心に、盛り沢山
の内容となりました。長い猛暑の
夏からあつという間に冬到来。桜
を愛で…今夏も長くなりそうです。

駆け足で月日が過ぎる中、新会
員勧誘用、流派紹介(改訂版)の
リーフレット2種と本誌が完成し、
ホームページの一部リニューアル
等、微力ながら活動が続けて参り
ました。

皆様のご指導、ご協力に厚く御
礼申し上げます。(広報部)

ご冥福をお祈りいたします

佐藤忠正先生 (令和七年二月)

長年のご尽力に

感謝申し上げます